

7月7日（日）夏の高校野球1回戦、選手全員で精一杯がんばりました。

第101回全国高校野球選手権愛知大会の1回戦で、衣台高校は安城高校と対戦しました。初回1番バッターがレフトフェンス直撃の2塁打を打つと、1塁側衣台スタンドは大声援に包まれました。今回は、吹奏楽部の応援も加わり、最後までグラウンドもスタンドも一体となって戦いました。結果は9対2で敗れてしまいましたが、見ごたえのあるすばらしい試合でした。

応援に駆けつけてくださった皆様、どうもありがとうございました。



第101回 全国高校野球選手権愛知大会
主催/朝日新聞社・県高野連

「9人」でここまでできた衣台

衣台の3年生は4人。そのひとり、福田大翔君は4番打者。この日は六回表1死三塁で外角低めの直球を左翼線に運ぶ適時打を放つなど、2安打2打点と活躍した。

福田君が入部したとき8人だった同級生は、少しずつ減り、昨年新チームになったときは4人。後輩とあわせて9人になった。

福田君は仲間が減る状況に悩み、部活をやめようとしたことがある。「練習しても試合できないまま終わるんじゃないかな」。引き留めたのは、主将の水田光作君だった。「ここでやめたら今まで野球をやってきた時間が無駄になる。最後までやれば心に『野球』の文字が残る」。中学時代、同じ硬式野球チームで汗を流した仲間の言葉に、思いとどまった。

その後同級生が1人減り、春の大会に出られないおそれがあったが、2月に野球経験がある山本知輝君



衣台・福田大翔君（右）と水田光作主将＝豊田



したことがある。「練習しても試合できないまま終わるんじゃないかな」。引き留めたのは、主将の水田光作君だった。「ここでやめたら今まで野球をやってきた時間が無駄になる。最後までやれば心に『野球』の文字が残る」。中学時代、同じ硬式野球チームで汗を流した仲間の言葉に、思いとどまった。

その後同級生が1人減り、春の大会に出られないおそれがあったが、2月に野球経験がある山本知輝君

が卓球部から転部。再び9人になった。

福田君たちは、後輩が入ってくることを信じて練習を積んだ。目標は、夏の愛知大会の初戦突破。福田君は筋トレで体重を5kg増やし、打撃フォームを見直して長打が打てるようになった。左翼を任された山本君は守備の練習に励んだ。今春、1年生2人が入った。

この日、結果は八回コールド負けとなったが、「次につなげる打撃ができた。ここまでこられたのはみんなのおかげ」と福田君は感謝した。水田君は「悔いはない。このメンバーで野球を続けて終われたことが全て」と言い切った。

(村上友里)

